

平成29年度第2回岡山市女性活躍推進協議会要旨

- 1 日 時 平成30年2月22日（木）午後3時～午後4時30分
- 2 場 所 岡山市役所本庁舎3階 第1会議室
- 3 出席委員 寺本座長、須々木副座長、伊丹委員、江田委員、加藤委員、北川委員、金平様（中山委員代理）、藤井委員、山田委員
- 4 出席職員 小野市民協働局統括審議監
（女性が輝くまちづくり推進課）逢澤審議監、奥野参事、石原課長代理、高村主査
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事
 - (1) 平成29年度事業実績について
 - (2) 平成30年度事業について
 - (3) 女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する調査について
 - (4) 女性活躍推進協議会の委員構成について
 - (5) その他

7 配布資料

- 資料1 岡山市女性活躍推進協議会委員名簿
資料2 平成29年度岡山市女性活躍推進事業
資料3 女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する調査（案）
置き資料 平成30年度女性が輝くまちづくり事業

8 会議の状況

議題1 平成29年度事業実績について

- ・女性活躍推進シンポジウム・座談会
- ・ワーク・ライフ・バランス啓発及び企業紹介事業
- ・市内企業で働く女性活躍プログラム
- ・男性管理職セミナー

以上の事業について説明

○主な意見

- ・女性活躍推進シンポジウムの参加者が昨年度より100人ほど少なかったが、原因は何か。
→昨年度は知名度の高いパネリストが出演したためではないか。
- ・男性管理職セミナーの受講者が少なくなっているということであるが、改善点はあるか。
→1回の講座4回を2回連続講座2回にする、一企業につき一人という制限を緩和するなど改善を行う。

議題2 平成30年度事業について

置き資料により、平成30年度事業について説明

○主な意見

- ・仕事と生活の調和の推進（２）の大学生のためのキャリア形成応援事業の内容や実施回数は。
→２つの大学に行きたいと考えている。仕事と家庭の両立を実践し活躍している女性に、実体験や工夫などを話していただき、仕事と家庭の両立のイメージがわからない、または子育てが大変だという不安感を持っている大学生に、ワーク・ライフ・バランスを考えながらライフプランを考えてもらう取組を行う。
- ・出前講座の対象は女性か
→男性にとっても、ワーク・ライフ・バランスについて大学生の頃から考えてもらうことは重要であるため、男性にも聞いてもらう。
- ・出前講座をする大学はどのようにして決めるのか。
→これから検討する。
- ・授業の一環にしないと学生は集まらない。
- ・労働法の周知について県内の大学に授業の１コマをいただき、出前講座を行っている。大学１、２年生は就職に対して実感がなくて、就職が近づいている３、４年生を対象に行うのがいいのではないかと。
- ・岡山県では、２月に学生を対象としたシンポジウムを行ったが、大学生を集めるのは難しい。授業の中のセミナーやゼミの一環として参加を呼びかけていただき、少しずつ参加者が増えてきた。岡山市や労働局、岡山県それぞれが関わりのある大学や高校で、それぞれの事業をPRするという連携がとれれば、集客を増やすことができるのではないかと。
- ・ほとんどの大学で、キャリア支援、キャリア開発などの科目を持っている。１年生から毎年やっている。今からなら、後期の授業に入れることができ、学生が多く集まると思う。
- ・基礎調査は、平成２６年度に行った調査と同じような内容になるのか。
→同じ項目もあるし、変えている、又は新たに設けた項目もある。
- ・大幅に変えると、前回と比較できなくなってしまうので注意が必要。

議題３ 女性活躍及びワーク・ライフ・バランスに関する調査について

<企業アンケート>

調査の目的、対象、スケジュール、項目などについて説明

○主な意見

- ・P４の問７－１で「成果が出ていると評価していますか」とあるが、評価という言葉を使うのではなく、「成果が出ている」など直接答えてもらうほうがいいのではないかと。
- ・P７の問９－１の（１）と（２）は育児休業の制度について聞いているが、法律では男性と女性を分けていないので、分ける必要がないのではないかと。
→この質問で聞きたいのが、利用実績である。男性の育児休業取得が進んでいないので、男性と女性の実績を対比して知りたいので分けている。
- ・育児休業制度の聞き方は、実績を聞きたいという理由があるが、もう少し工夫をしたほうがいいのではないかと。
- ・制度を導入しているかどうかについては、男性と女性を一緒にするほうがいい。今は、制度上性別で分かれているものはほとんどないので、違和感がある。実績を聞きたいというのはよくわかる。
- ・育児休業だけ分けて、その他は分けなくてもいいのか。
→その他も分けて聞きたいが、ワーク・ライフ・バランスでは特に仕事と育児の両立を重要視しているので、今回は育児休業制度について男性と女性それぞれ分けて聞いている。
- ・企業１、２００社が対象となっているが、これは郵送するのか。前回の調査の回答率はどれくらいか。
→前回も１、２００社に送り、回答率は４４％であった。

- ・アンケートの方法を、ホームページに誘導して入力してもらおうなど、回答しやすくしたらいいのではないか。
- ・P 8 の問 10 で、企業にとって、自社でできる取組と外部に支援してもらいたい取組は違う。市に求める取組が知りたいという意図があるなら、直接そのように聞いたほうがいいのではないか。

<市民アンケート>

調査対象、スケジュール、項目について説明

○主な意見

- ・問 1 - 2 で性別を聞かないのに、その他の項目では性別により答える項目が分かれている。性別を選べない人はどうするのか。
→性同一性障害の専門家などからは、性別を選ぶ項目が、男性、女性の二つしかないと当事者の方は悩んでしまうが、自分で記入する方が回答しやすいとの意見もあり、参考にしながら項目を検討した。
- ・P 5 の問 2 - 2 - 3 の選択肢 6 の「残業を」の「を」が不要である。
- ・企業アンケートでは、行政の取組で必要と考えられるものを聞いているが、市民に対しては聞かないのか。
→P 7 の問 5、6 で「行政に」と限定はしていないが、選択肢の中に行政が取り組むべきことを含めている。
- ・市民に行政に求めることをずばり聞いてもいいのではないか。
- ・再雇用や定年延長に取り組んでいる企業が増えているので、60歳代もアンケートの対象にすることを検討してほしい。
- ・P 7 の問 5 で、選択肢が全て他人任せの内容になっている。多くの女性は自分自身がどうしたいかわからないためにミスマッチが起こり、それが働いていない原因となっている。働き続けるために必要なことが自分の中にもあることに気付いている人がいるかを知る項目もあったらいいのではないか。制度や仕組みを作っても、働く意識がないから就職活動をしなない人たちが潜在的な労働者となっている。より生の声や実態が掴めるような質問にしたらいいのではないか。
- ・P 7 の問 6 の選択肢 8 で男性に対する啓発だけでなく、女性に対する啓発の必要性もあるのではないか。男性に対する啓発について聞きたいなら、男性と女性をわける、または上司に対する啓発にするなどがいいのではないか。
- ・P 10 の問 12 の選択肢 3 で、「子育て、介護、家事への協力」を「子育て、介護、家事の分担」に変えてほしい。
- ・ワーク・ライフ・バランスという言葉は少数の人にしかわからない。特に働いていない女性はわからない。自分のことではないと思えば答えない人が多いかもしれない。より多くの人に答えてもらうよう説明があつたらいいのではないか。
- ・岡山県でも一昨年、企業が女性活躍についてどう考え、どう取り組んでいるかについて企業意識調査を行った。企業の意識データは、女性または従業員の意識を反映していないことに気づいた。今回の調査は、企業と市民を対象に行うので、クロス集計を行うなど、分析の時に相乗効果で良い結果が出せるようにしたらいいのではないか。

議題 4 女性活躍推進協議会の委員構成について

この 3 月末で協議会委員の 2 年の任期が終了するが、4 月以降の委員構成を現在と同じ分野で継続していきたいことを説明し、了承された。

議題 5 その他

今回は 4 月に開催予定。日程調整のうえ、決まり次第連絡する。

人事異動等あれば、改めて推薦書を提出していただく。